

## 関学日本語教育研究会の趣旨

森本郁代（関西学院大学法学部／日本語教育センター副長）

関学日本語教育研究会は、2007年4月に、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科において新たに日本語教育学プログラムが開講されたのを機に、経済学部の于康教授（当時、現在は国際学部教授）の呼びかけで発足した。本研究会は、関西学院大学の日本語教育及び日本語教育研究に携わるすべての教員及び大学院生に開かれた研究会であり、通常、春学期終了後の7月と秋学期終了後の1月に開催されている。

年2回の研究会のうち、7月は、学内の日本語教育または日本語教育学の教員による研究発表や実践報告が行われ、1月の研究会には、学内外の関連分野の研究者による講演という形式をとっている。これまで、ディベート教育、作文教育など、日本語教育の方法論に関わるテーマが中心であったが、昨年度は、学内の発達障害者への支援を専門とする教員に、発達障害や学習障害を持つ学生に対する現場の対応の在り方について講演をしていただくなど、日本語教育の現場にかかわるさまざまな課題を取り上げている。

2011年度は、4月より新たに経済学部日本語専任教員として着任された長谷川哲子准教授に、「学部留学生の日本語能力における問題点、およびその改善に向けた取り組み」について報告していただき、続いて、同じく4月に日本語教育センターに着任された佐々木良造日本語常勤講師に、「日本語教師の教育経験による態度の変容に関する事例研究」というタイトルで発表していただいた。両報告とも、日本語教育センター発足の年にふさわしい、本学の日本語教育研究の実践に大きく貢献する内容である。詳細は、両氏による研究会報告の概要をご覧ください。

さらに、通常1月に開催していた講演会を6月に変更し、言語コミュニケーション文化研究科に客員教員として来られていた北京語言大学外国語学院日本語学部の俞曉明教授にお願いし、「中国語話者の日本語習得上の問題点—いわゆる二系列現象を中心に—」というテーマでご講演をいただいた。ご講演の内容は、本学の留学生の多くを占める中国出身の学生への日本語指導に対して非常に多くの示唆を与えるものであった。俞曉明教授のご講演の詳細についても、今回、研究会報告として掲載させていただいている。

関学日本語教育研究会も2007年の発足から来年度で5年を迎える。本学に在籍する留学生数の増加や出身国、背景の多様化などに対応するために、日本語教育センターに課せられた役割は大きい。関西学院大学の日本語教育及び日本語教育研究を充実させ、さら発展させるために、今後も積極的に活動が続けていく予定である。